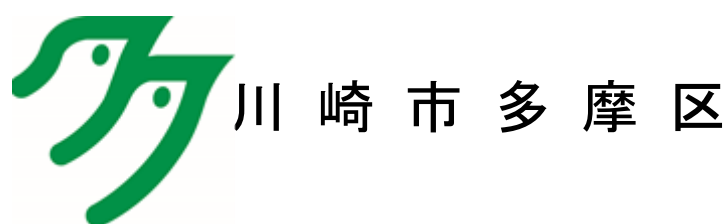


令和4年度
多摩区区民意識アンケート調査
報告書【概要版】

令和5年2月



調査概要

- (1) 調査の対象者 …… 多摩区在住の18歳以上の男女個人（外国人を含む）
- (2) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (3) 調査方法 …… 郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (4) 調査期間 …… 令和4年9月12日（月）～令和4年10月11日（火）
- (5) 調査委託機関 …… 株式会社 CCNグループ

回収状況

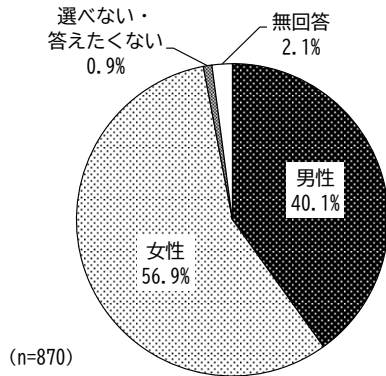
- (1) 標本数 2,000 票
- (2) 有効回収数 870 票（有効回収率 43.5%）

主要な調査項目

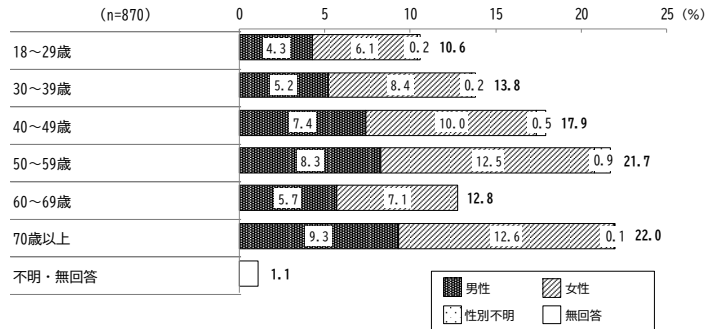
- 生活環境の満足度について
- 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて
- 区役所が推進する主な取組みについて

調査回答者の属性

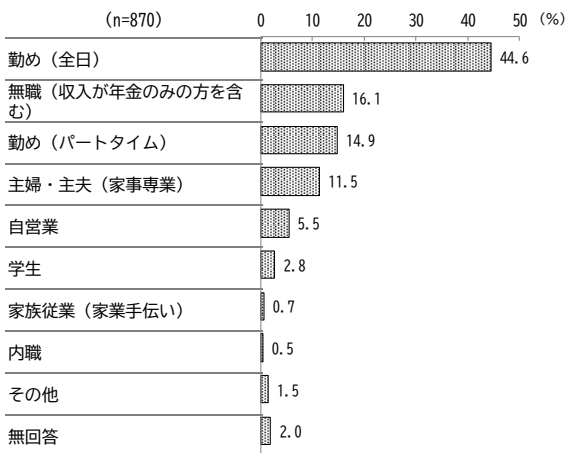
◆性別



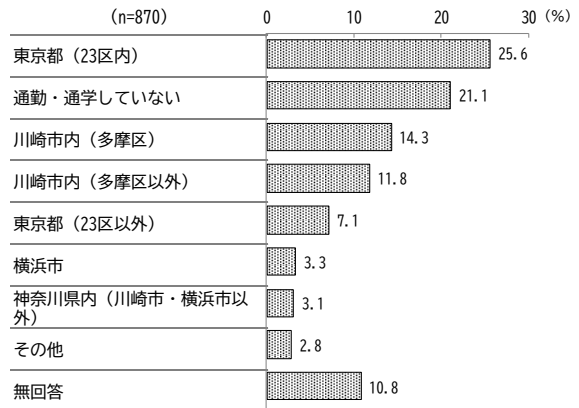
◆性年代別



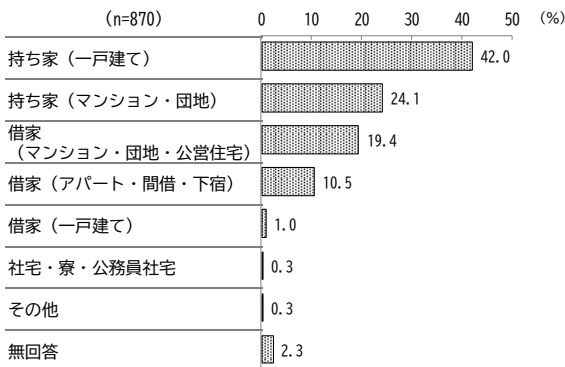
◆職業



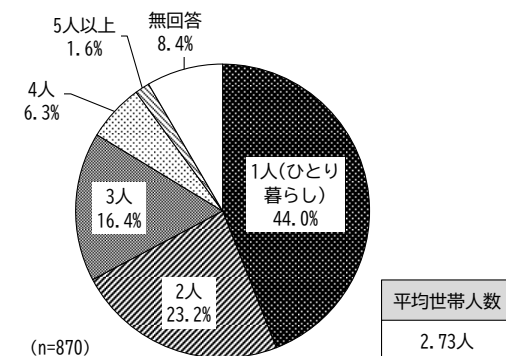
◆通勤先/通学先



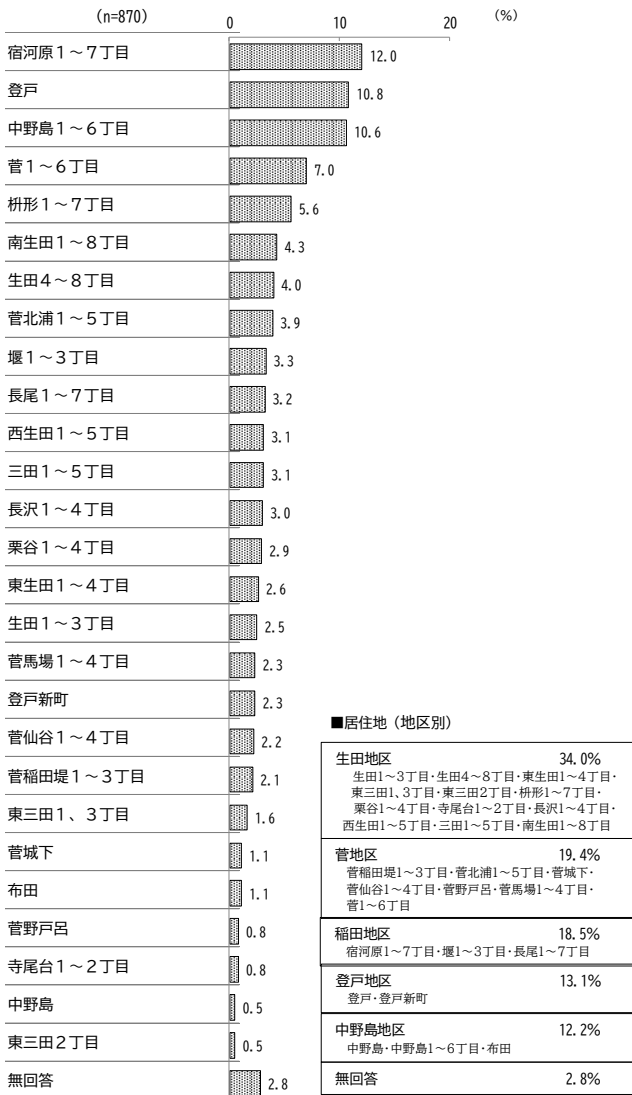
◆住居形態



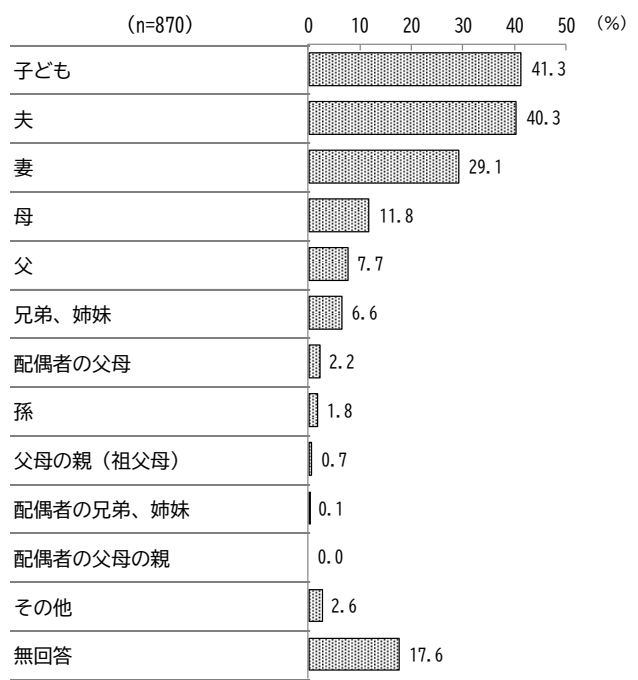
◆世帯人数



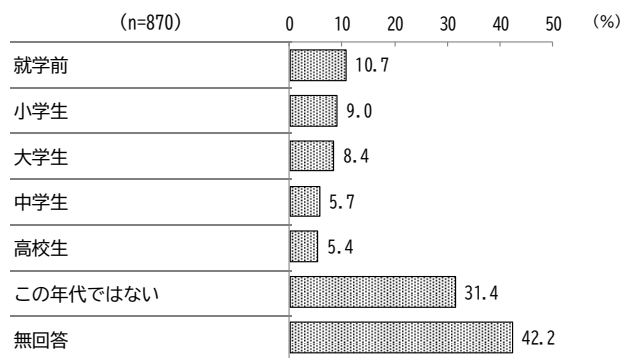
◆居住地



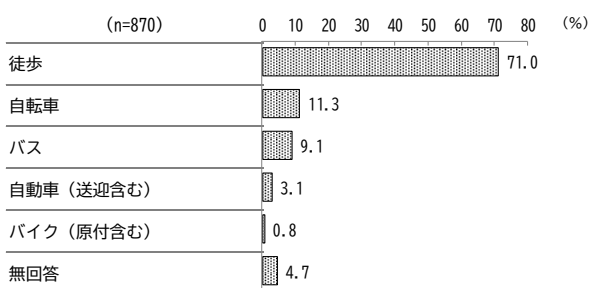
◆同居家族



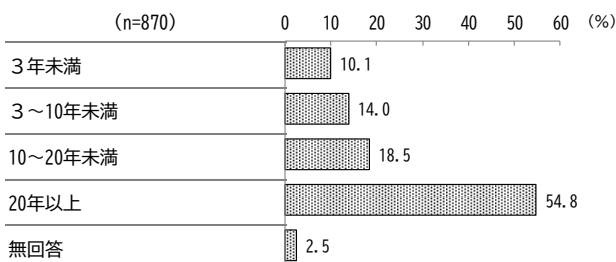
◆子どもの年代



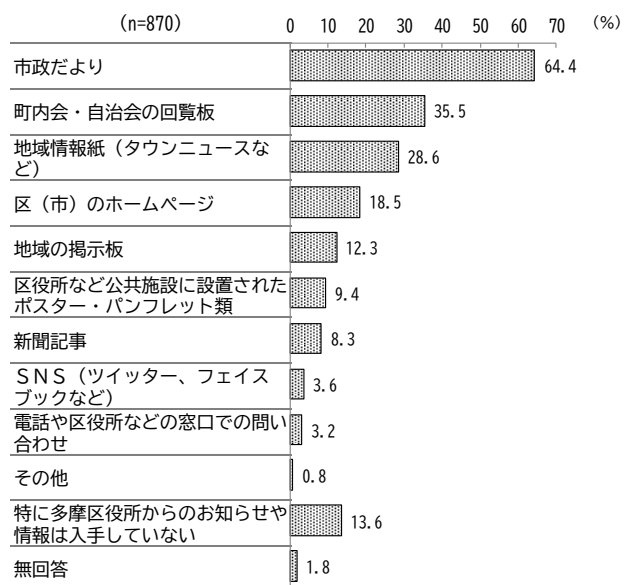
◆最寄り駅までの交通手段



◆居住年数

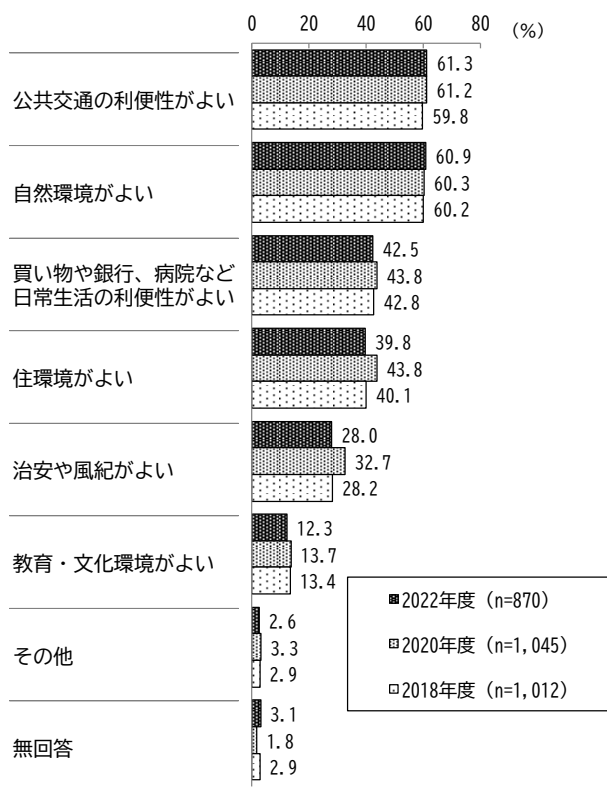


◆区の知らせや情報の入手手段



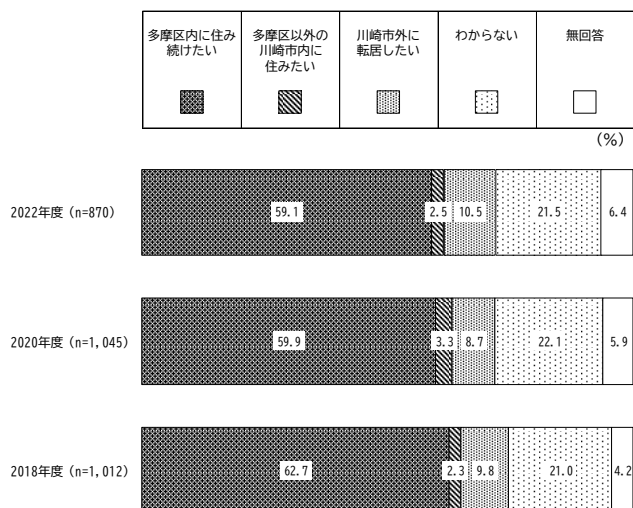
生活環境の満足度について

1 多摩区の長所・魅力



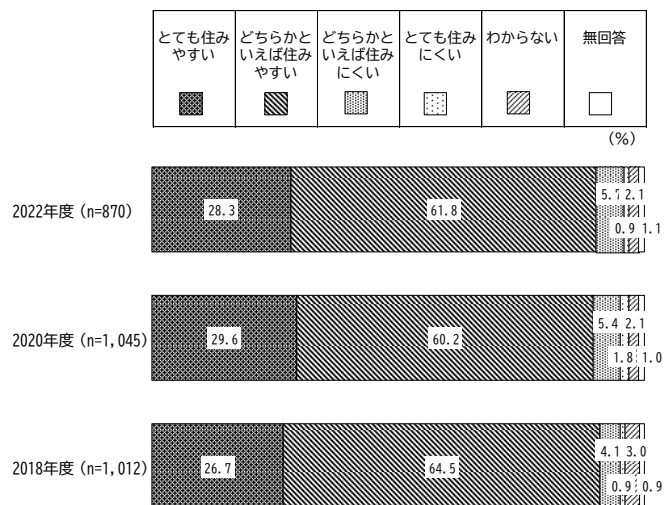
「多摩区の長所・魅力」について聞いたところ、「公共交通の利便性がよい」(61.3%)が最も高い結果となり、次いで「自然環境がよい」(60.9%)、「買い物や銀行、病院など日常生活の利便性がよい」(42.5%)となっている。

3 定住意向



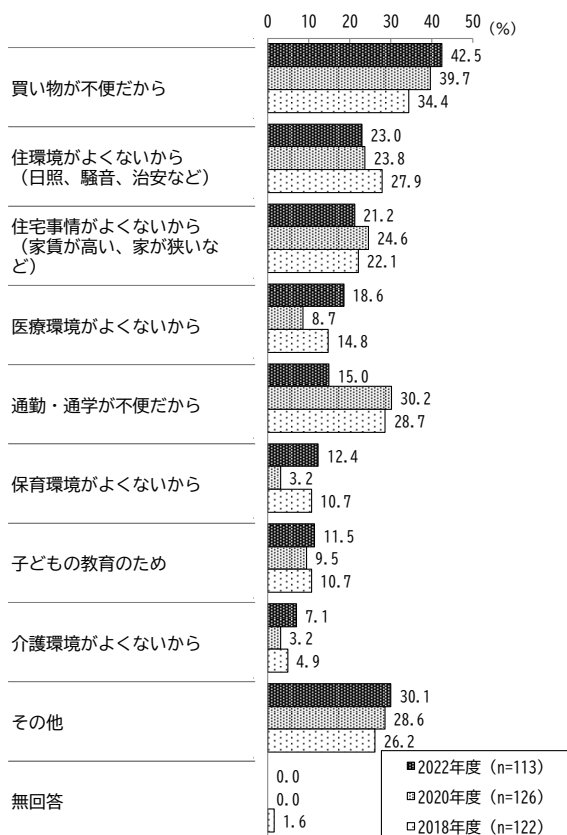
「定住意向」について聞いたところ、「多摩区内に住み続けたい」(59.1%)が最も高い結果となった。

2 住みやすさ



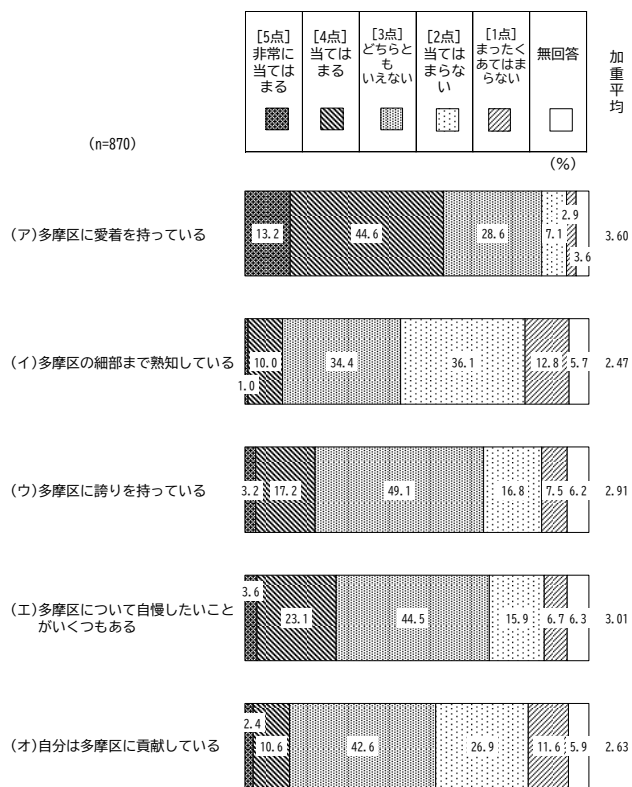
「住みやすさ」について聞いたところ、「どちらといえば住みやすい」(61.8%)、「とても住みやすい」(28.3%)の順となり、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい計』は90.1%となっている。

4 区外転居意向の理由



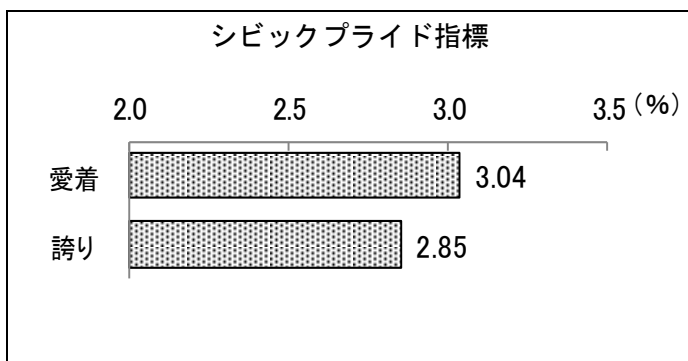
「定住意向」で、「多摩区以外の川崎市内に住みたい」「川崎市外に転居したい」と回答した人に「区外転居意向の理由」について聞いたところ、「買い物が不便だから」(42.5%)が最も高く、次いで「住環境がよくないから(日照、騒音、治安など)」(23.0%)、「住宅事情がよくないから(家賃が高い、家が狭いなど)」(21.2%)の順となった。

5 多摩区に対する愛情や誇り



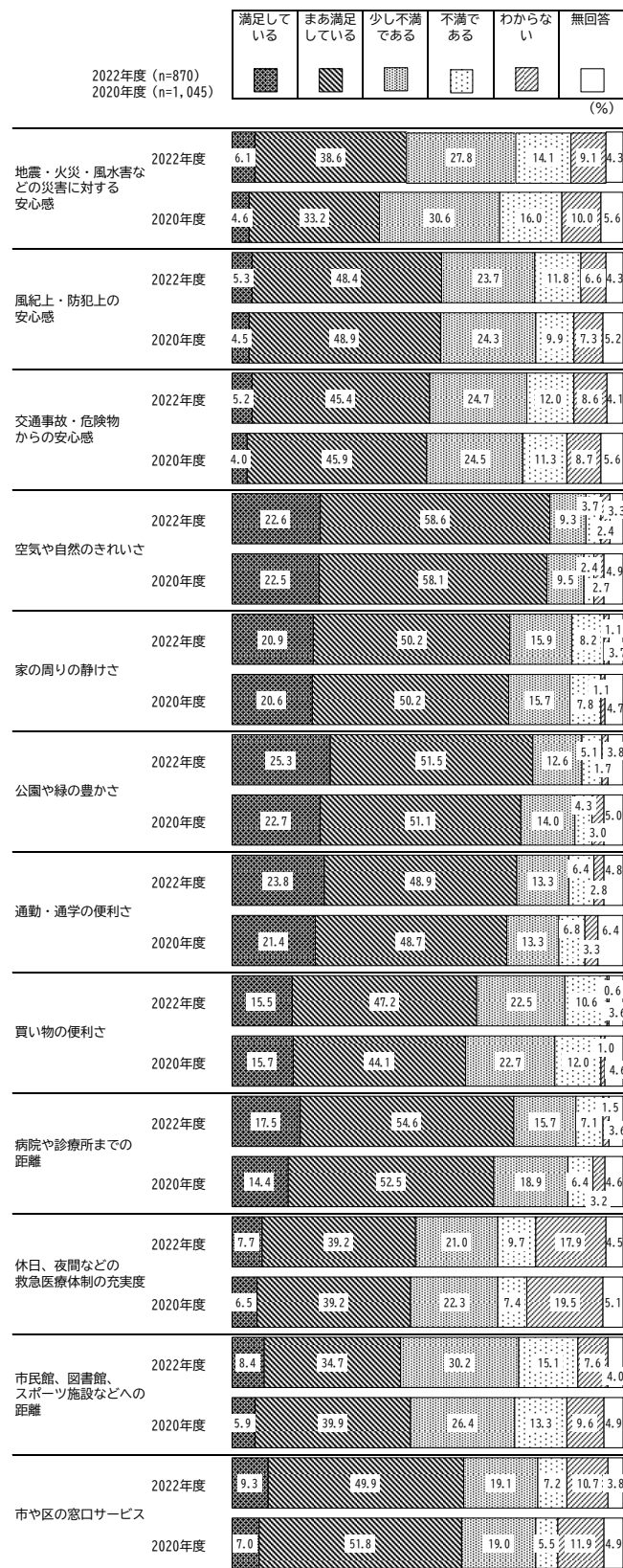
「多摩区に対する愛情や誇り」について聞いたところ、「非常に当てはまる」と「当てはまる」を合わせた『当てはまる計』では、他の項目に比べ、「(ア)多摩区に愛着を持っている」(57.8%)が最も高くなっている。

一方、「まったく当てはまらない」と「当てはまらない」を合わせた『当てはまらない計』では「(イ)多摩区の細部まで熟知している」(48.9%)が最も高くなっている。



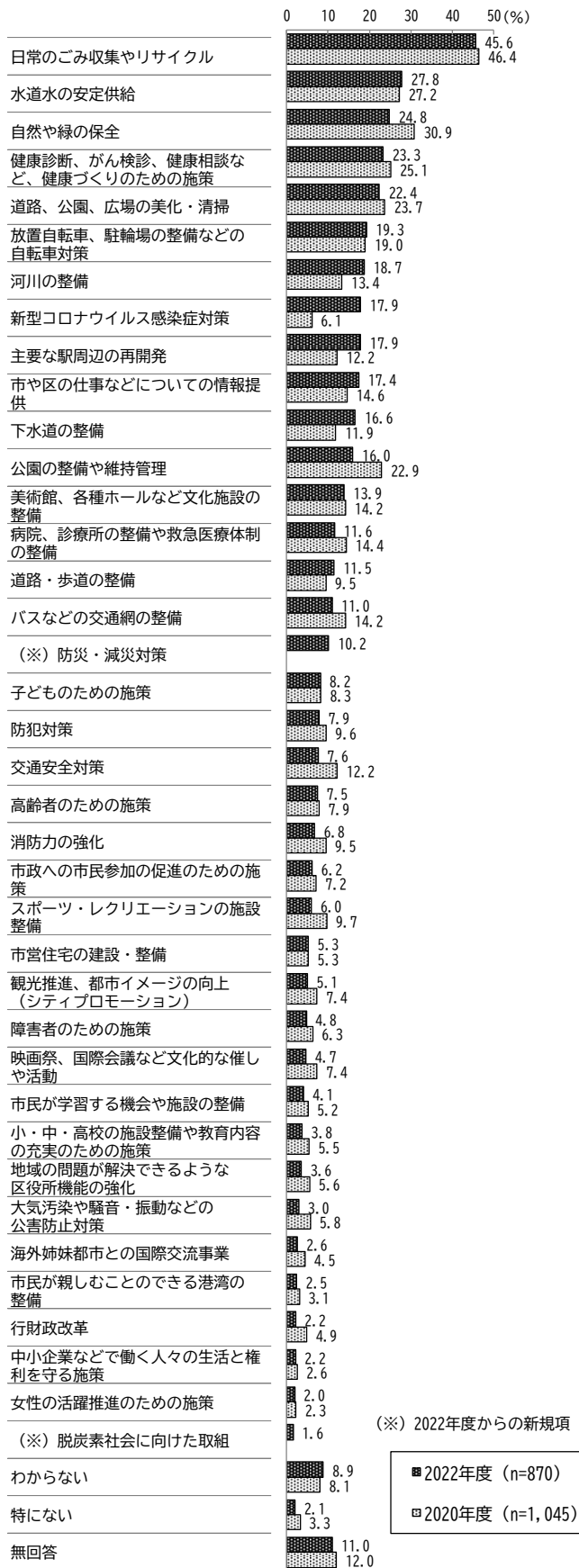
シビックプライド指標とは、自分の住んでいるまちに対する愛着や誇りを表す概念のこと。多摩区では、質問(ア)、(イ)を「愛着」、質問(ウ)、(エ)、(オ)を「誇り」の指標として、それぞれの質問項目の平均値から算出した。

6 多摩区の生活環境

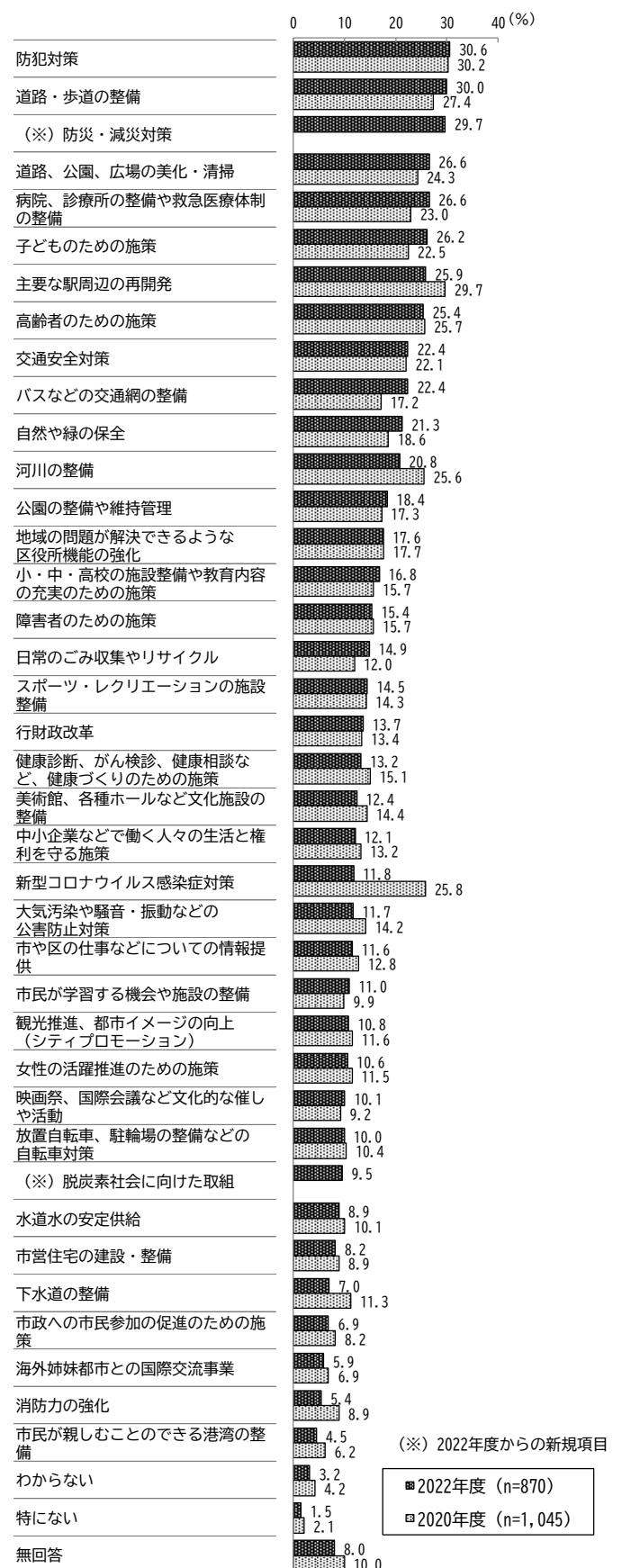


「多摩区の生活環境」について聞いたところ、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している計』で、「空気や自然のきれいさ」(81.2%)が最も高く、2020年度と同じ結果となった。

7 市政についてよくやっていると思うもの



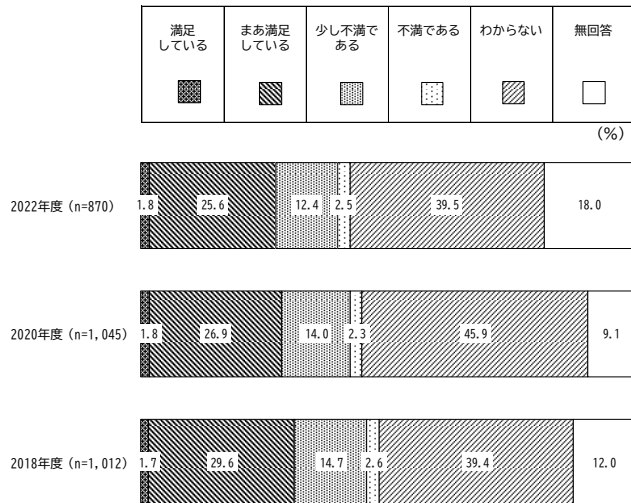
8 市政について今後特に力を入れてほしいもの



「市政についてよくやっていると思うもの」について聞いたところ、「日常のごみ収集やリサイクル」(45.6%)が最も高く、次いで、「水道水の安定供給」(27.8%)、「自然や緑の保全」(24.8%)の順となった。

「市政について今後特に力を入れてほしいもの」について聞いたところ、「防犯対策」(30.6%)が最も高く、次いで、「道路・歩道の整備」(30.0%)、「防災・減災対策」(29.0%)の順となった。

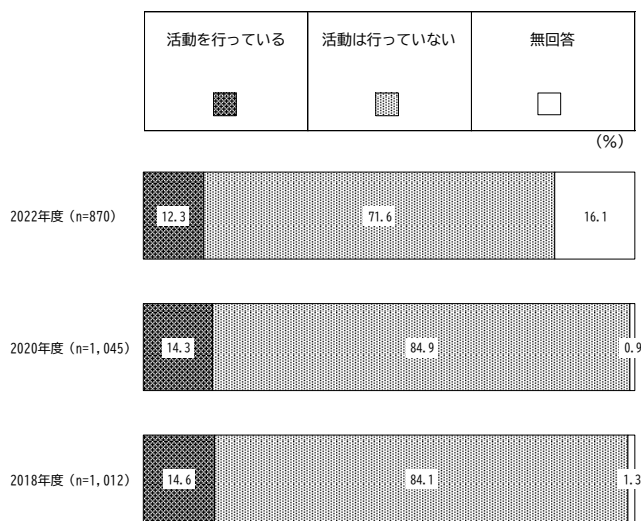
9 市の施策や事業の総合満足度



「市の施策や事業の総合満足度」について聞いたところ、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している計』は、27.4%となった。

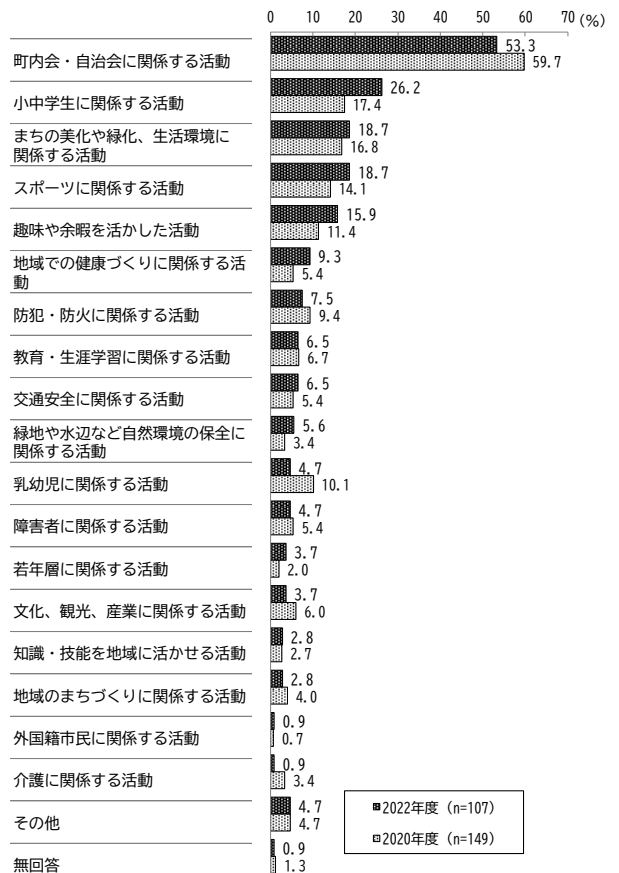
市政への参加、地域でのボランティア活動などについて

10 地域活動の状況



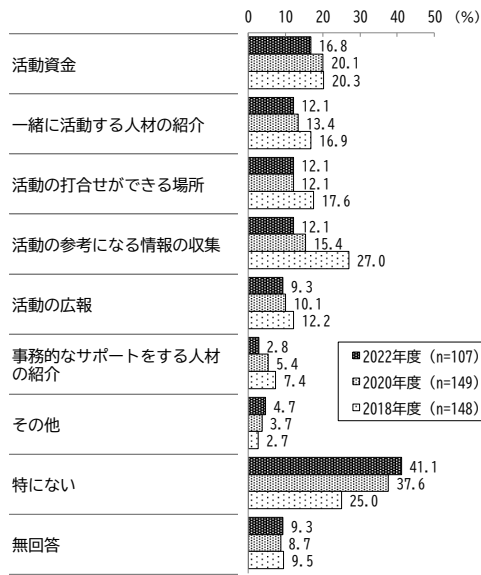
「地域活動の状況」について聞いたところ、「活動を行っている」は12.3%で、2020年度と比較して微減の結果となった。

11 行っている地域活動の分野



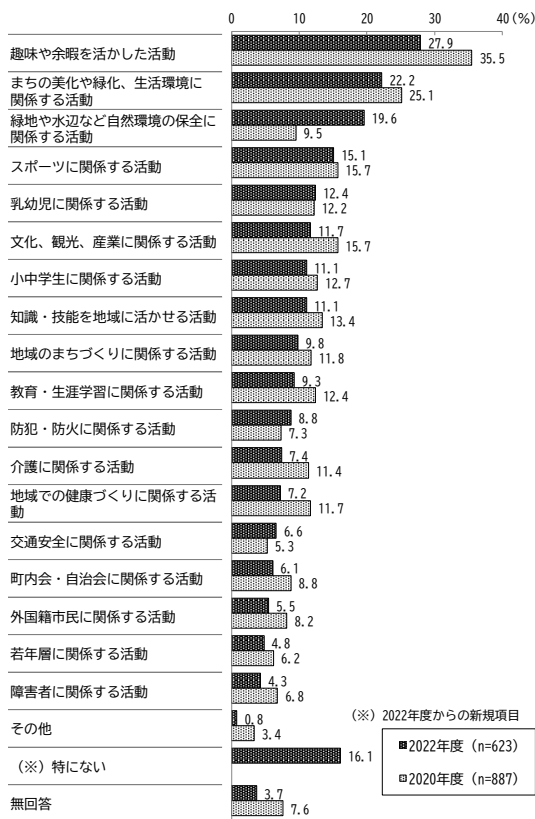
「(10) 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、「行っている地域活動の分野」について聞いたところ、「町内会・自治会に関する活動」(53.3%)が最も高く、次いで「小中学生に関する活動」(26.2%)、「まちの美化や緑化、生活環境に関する活動」「スポーツに関する活動」(ともに18.7%)の順となった。

1 2 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの



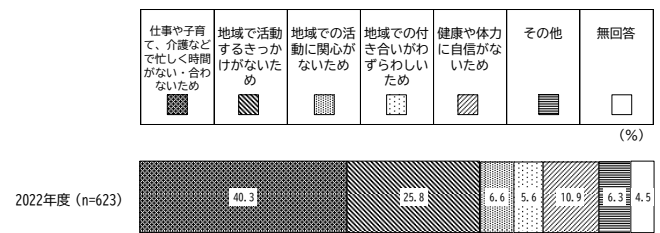
「(10) 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、「地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの」について聞いたところ、「活動資金」(16.8%)が最も高く、次いで「一緒に活動する人材の紹介」「活動の打合せができる場所」「活動の参考になる情報の収集」(ともに12.1%)、「活動の広報」(9.3%)の順となった。

1 4 地域活動への関心分野



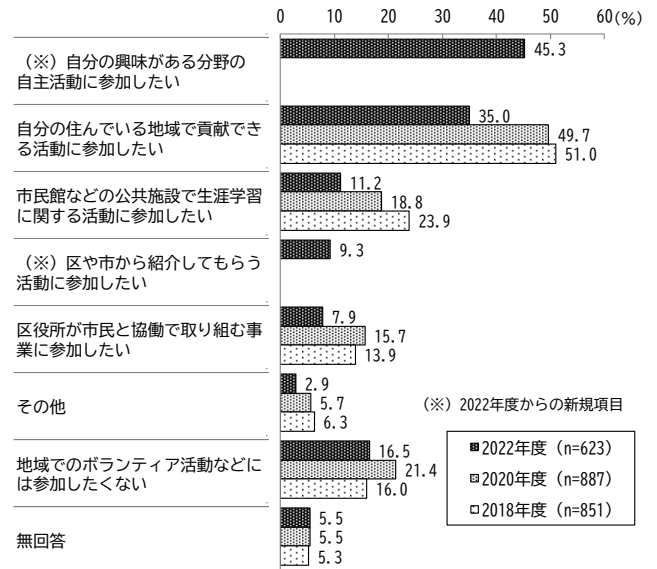
「(10) 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動への関心分野」について聞いたところ、「趣味や余暇をした活動」(27.9%)が最も高く、次いで「まちの美化や緑化、生活環境に関係する活動」(22.2%)、「緑地や水辺など自然環境の保全に関係する活動」(19.6%)、「スポーツに関係する活動」(15.1%)の順となった。

1 3 地域活動を行っていない理由



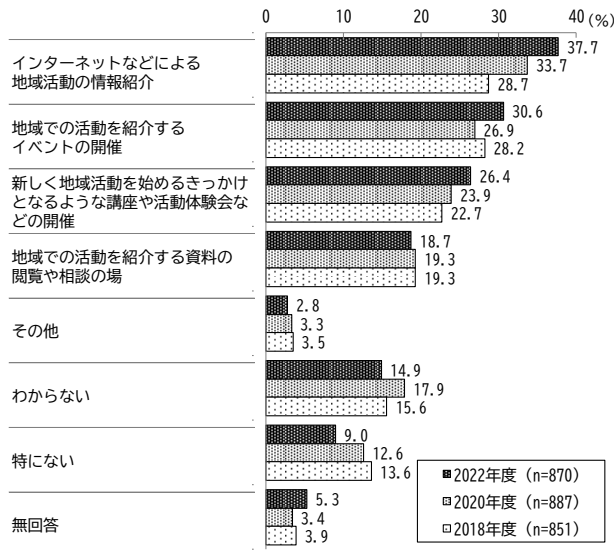
「(10) 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動を行っていない理由」について聞いたところ、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」(40.3%)が最も高く、次いで「地域で活動するきっかけがないため」(25.8%)、「健康や体力に自信がないため」(10.9%)の順となった。

1 5 地域活動への取組意向



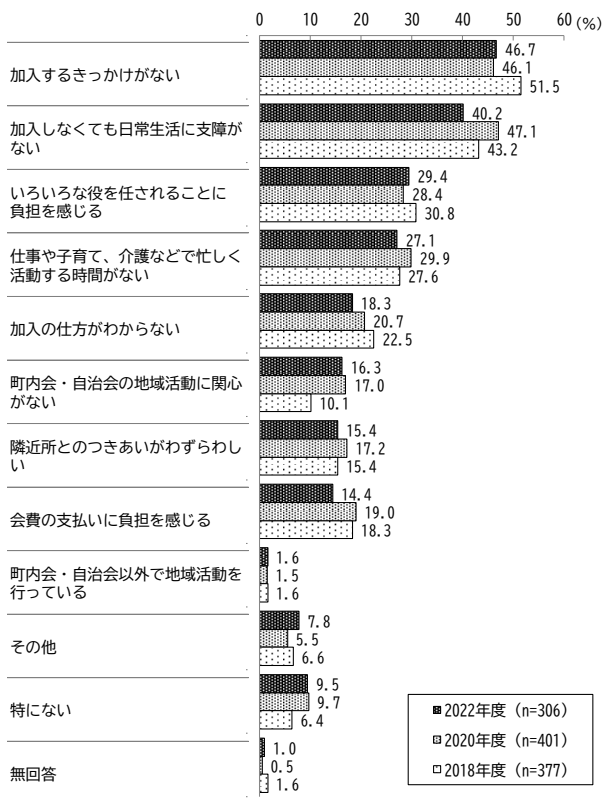
「(10) 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動への取組意向」について聞いたところ、「自分の興味がある分野の自主活動に参加したい」(45.3%)が最も高く、次いで「自分の住んでいる地域で貢献できる活動に参加したい」(35.0%)、「市民館などの公共施設で生涯学習に関する活動に参加したい」(11.2%)、「区や市から紹介してもらった活動に参加したい」(9.3%)の順となった。

16 地域活動を始めるために必要な機会や場



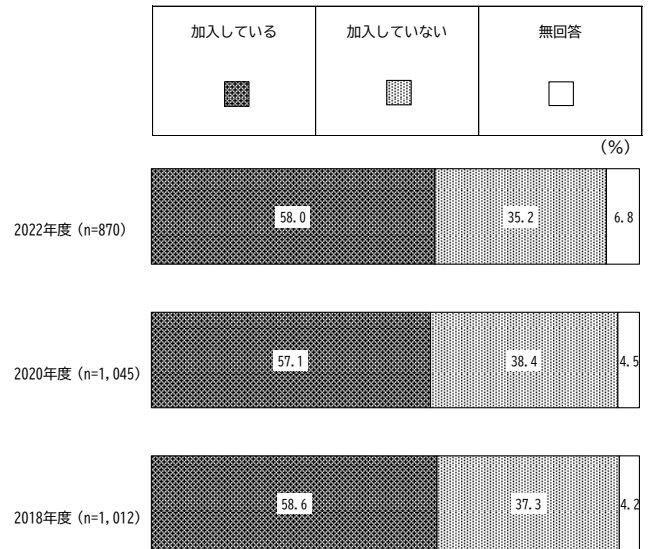
「地域活動を始めるために必要な機会や場」について聞いたところ、「インターネットなどによる地域活動の情報紹介」(37.7%)が最も高く、次いで「地域での活動を紹介するイベントの開催」(30.6%)、「新しく地域活動を始めるきっかけとなるような講座や活動体験会などの開催」(26.4%)、「地域での活動を紹介する資料の閲覧や相談の場」(18.7%)の順となった。

18 町内会・自治会に加入していない理由



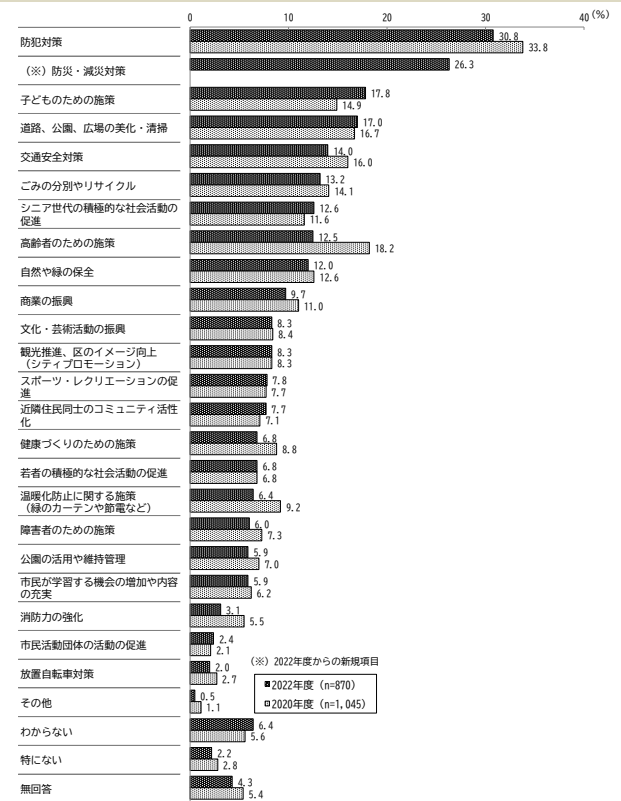
「(17) 町内会・自治会への加入状況」で「加入していない」と回答した人に、「町内会・自治会に加入していない理由」について聞いたところ、「加入するきっかけがない」(46.7%)が最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(40.2%)、「いろいろな役を任せられることに負担を感じる」(29.4%)、「仕事や子育て、介護などで忙しく活動する時間がない」(27.1%)の順となった。

17 町内会・自治会への加入状況



町内会・自治会への加入状況について聞いたところ、「加入している」(58.0%)、「加入していない」(35.2%)となった。

19 区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの



「区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの」について聞いたところ、「防犯対策」(30.8%)が最も高く、次いで「防災・減災対策」(26.3%)、「子どもための施策」(17.8%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(17.0%)の順となった。

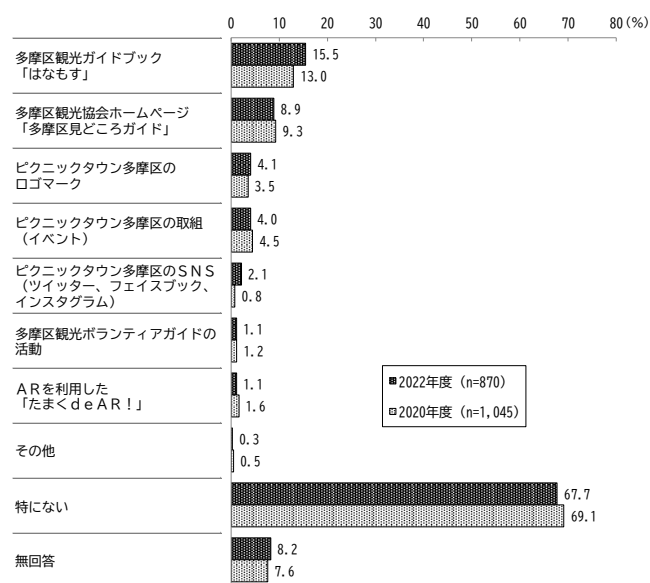
区役所が推進する主な取組について

20 多摩区の見どころ



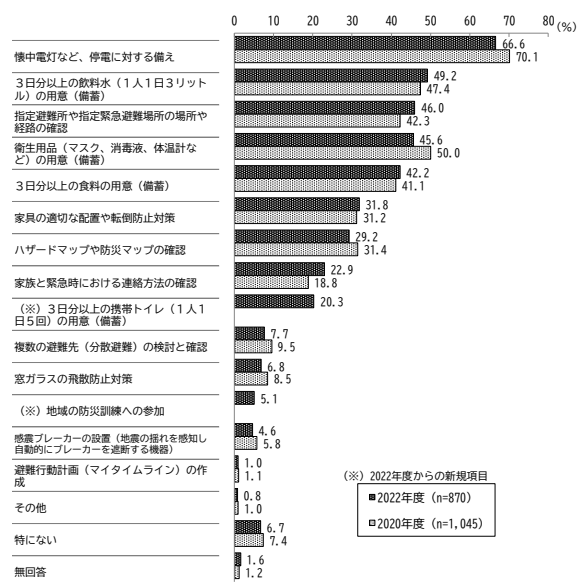
「多摩区の見どころ」について聞いたところ、「生田緑地」(54.0%)が最も高く、次いで「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」(35.4%)、「よみうりランド」(27.5%)、「多摩川」(23.4%)の順となった。

21 区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況



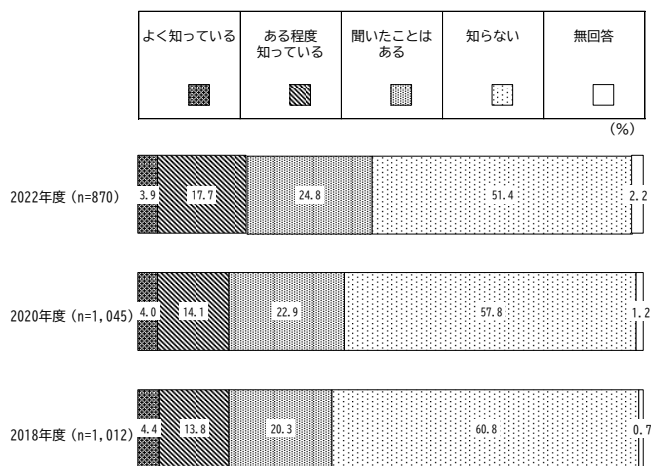
「区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況」について聞いたところ、「特にない」(67.7%)が最も高い結果となった。知っているもの、見たことのあるもので見ると、「多摩区観光ガイドブック『はなもす』」(15.5%)が最も高く、次いで「多摩区観光協会ホームページ『多摩区見どころガイド』」(8.9%)の順となった。

22 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組



「地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組」について聞いたところ、「懐中電灯など、停電に対する備え」(66.6%)が最も高く、次いで「3日以上分の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(49.2%)、「指定避難所や指定緊急避難場所の場所や経路の確認」(46.0%)、「衛生用品(マスク、消毒液、体温計など)の用意(備蓄)」(45.6%)の順となった。

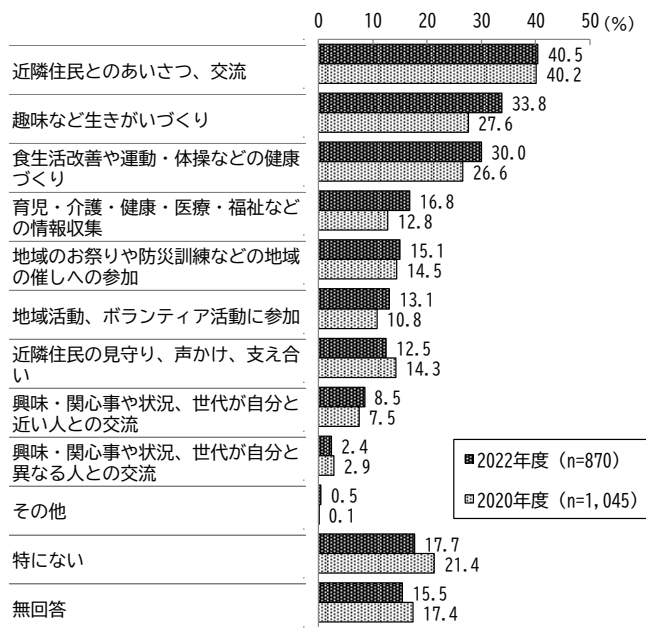
2.3 「地域包括ケアシステム」の認知状況



「『地域包括ケアシステム』の認知状況」について聞いたところ、「知らない」(51.4%)が最も高く、次いで「聞いたことはある」(24.8%)、「ある程度知っている」(17.7%)、「よく知っている」(3.9%)の順となった。

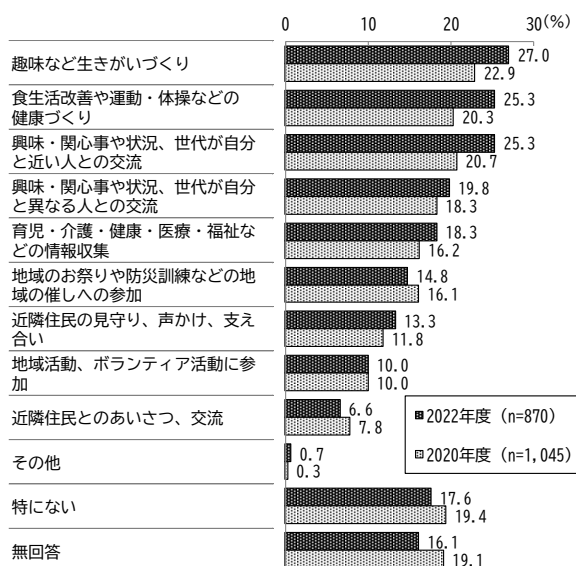
「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』(46.4%)は、2020年度と比較して5.4ポイント上昇する結果となった。

2.4 「地域包括ケアシステム」における自助・互助の活動状況



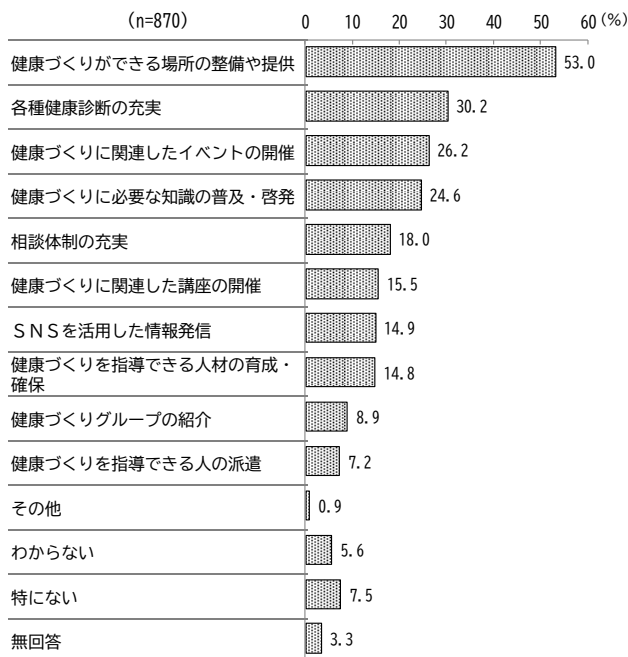
「『地域包括ケアシステム』における自助・互助の活動状況」について聞いたところ、「近隣住民とのあいさつ、交流」(40.5%)が最も高く、次いで「趣味など生きがいづくり」(33.8%)、「食生活改善や運動・体操などの健康づくり」(30.0%)、「育児・介護・健康・医療・福祉などの情報収集」(16.8%)の順となった。

2.5 「地域包括ケアシステム」における自助・互助として行ってみたい活動内容



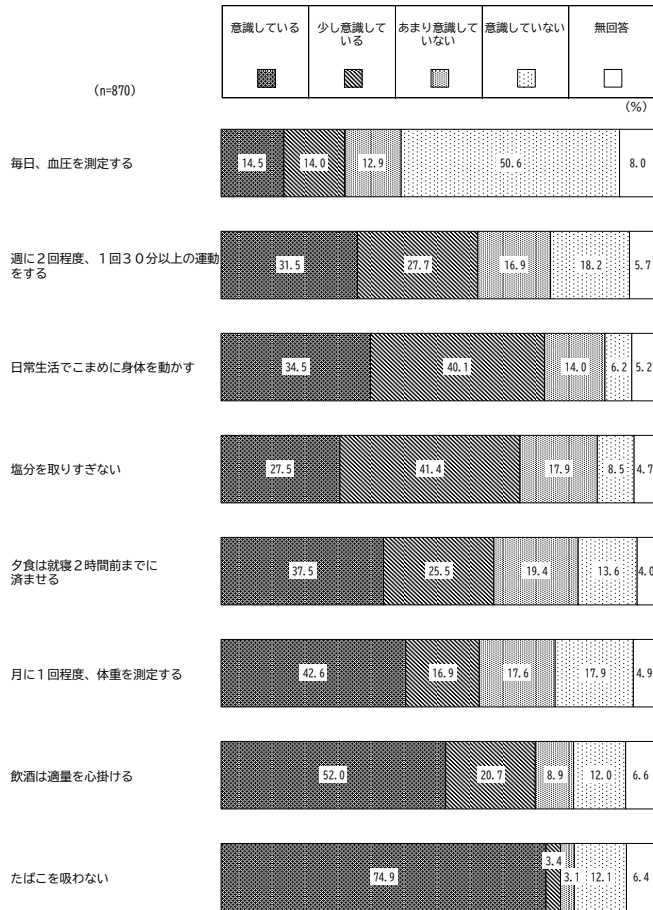
「『地域包括ケアシステム』における自助・互助として行ってみたい活動内容」について聞いたところ、「趣味など生きがいづくり」(27.0%)が最も高く、次いで「食生活改善や運動・体操などの健康づくり」「興味・関心事や状況、世代が自分と近い人との交流」(ともに25.3%)、「興味・関心事や状況、世代が自分と異なる人との交流」(19.8%)の順となった。

2.6 健康づくり推進のため、重要だと思う取組



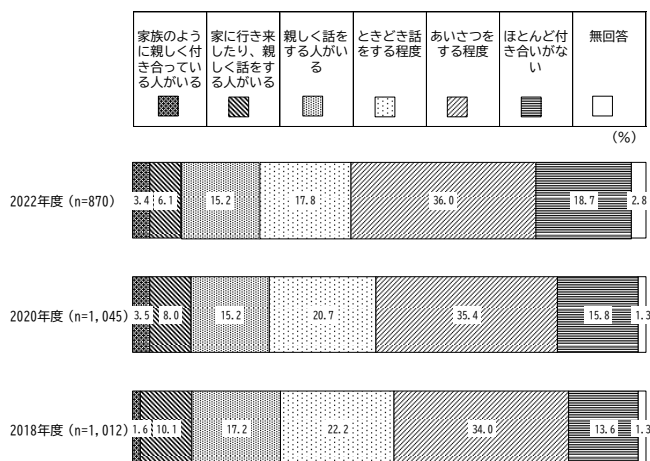
「健康づくり推進のため、重要だと思う取組」について聞いたところ、「健康づくりができる場所の整備や提供」(53.0%)が最も高く、次いで「各種健康診断の充実」(30.2%)、「健康づくりに関連したイベントの開催」(26.2%)、「健康づくりに必要な知識の普及・啓発」(24.6%)の順となった。

27 日々の健康づくりとして意識していること



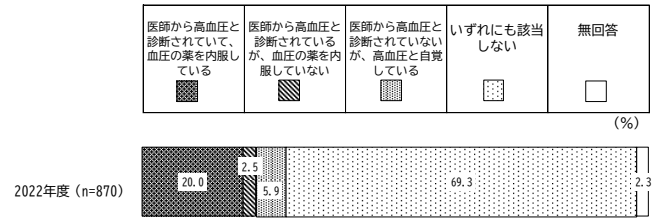
「日々の健康づくりとして意識していること」について聞いたところ、「意識している」と「少し意識している」を合わせた『意識している計』で、「たばこを吸わない」(78.3%)が最も高い結果となった。

29 近所付き合いの程度



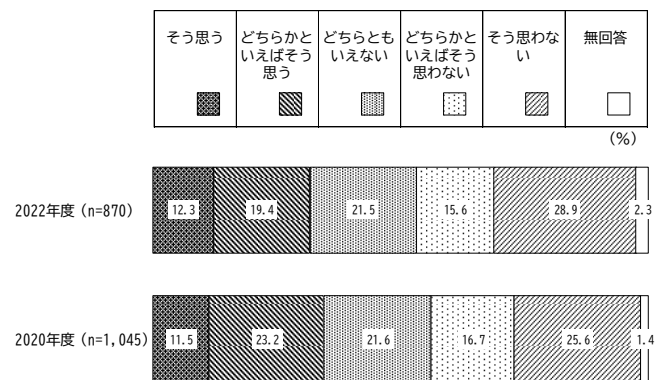
「近所付き合いの程度」について聞いたところ、「あいさつをする程度」(36.0%)が最も高く、次いで「ほとんど付き合いがない」(18.7%)、「ときどき話をする程度」(17.8%)の順となった。

28 高血圧に関する健康状態



「高血圧に関する健康状態」について聞いたところ、「いずれにも該当しない」(69.3%)が最も高く、次いで「医師から高血圧と診断されていて、血圧の薬を内服している」(20.0%)、「医師から高血圧と診断されていないが、高血圧と自覚している」(5.9%)、「医師から高血圧と診断されているが、血圧の薬を内服していない」(2.5%)の順となった。

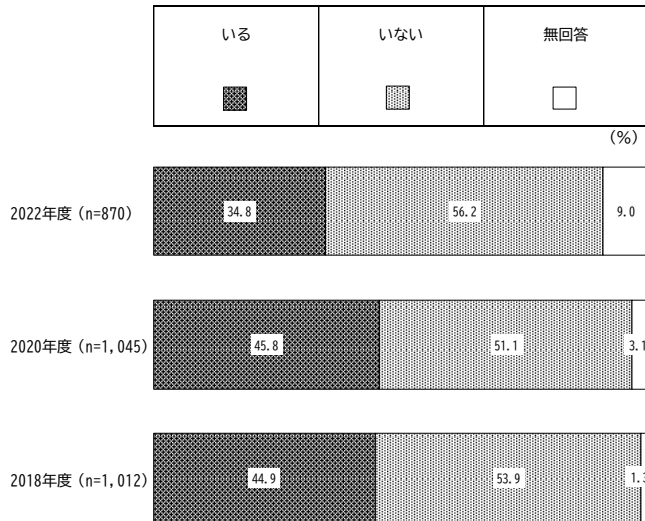
30 自分と世代が異なる人との付き合いの状況



「自分と世代が異なる人との付き合いが多いか」について聞いたところ、「そう思わない」(28.9%)が最も高く、次いで「どちらともいえない」(21.5%)、「どちらかといえばそう思う」(19.4%)の順となった。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う計』(31.7%)は、2020年度より3.0ポイント低い結果となった。

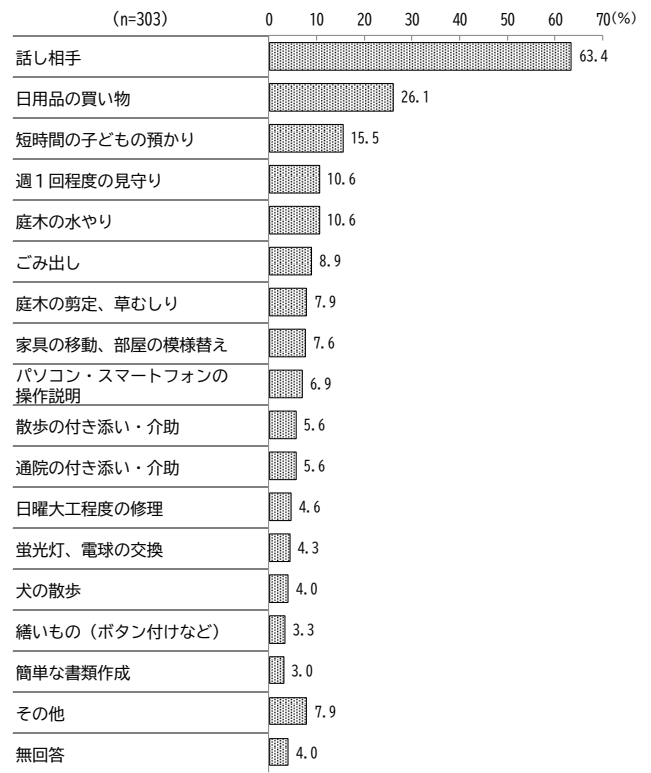
3 1 近所に手助けを頼める人の有無



「近所に手助けを頼める人の有無」について聞いたところ、「いない」が56.2%、「いる」が34.8%となった。

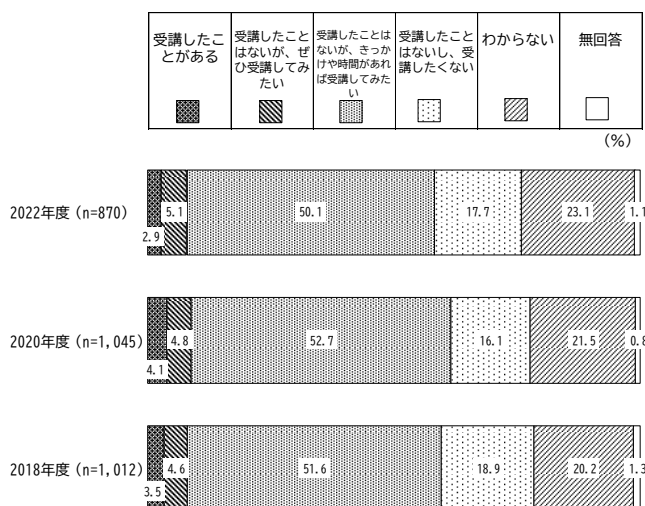
「いる」は、2020年度より11.0ポイント低い結果となった。

3 2 近所に手助けを頼めると思うこと



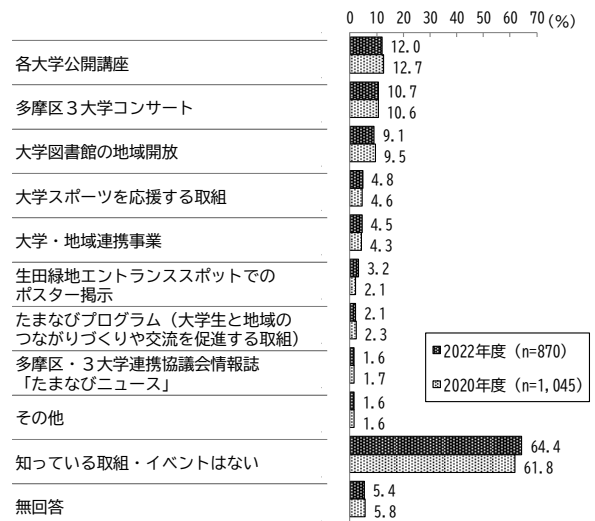
「近所に手助けを頼めると思うこと」について聞いたところ、「話し相手」(63.4%)が最も高く、次いで「日用品の買い物」(26.1%)、「短時間の子どもの預かり」(15.5%)、「週1回程度の見守り」「庭木の水やり」(ともに10.6%)の順となった。

3 3 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向



『「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向』について聞いたところ、「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」(50.1%)が最も高く、次いで「わからない」(23.1%)、「受講したことはないし、受講したくない」(17.7%)の順となった。

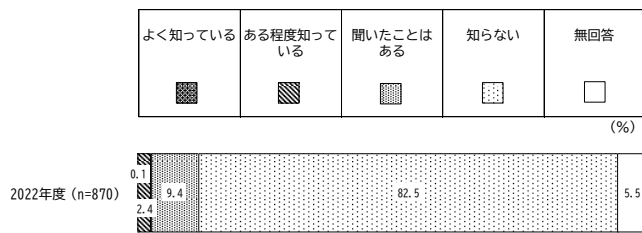
3 4 知っている3大学関連イベント



「知っている3大学関連イベント」について聞いたところ、「知っている取組・イベントはない」が64.4%と最も高い結果となった。

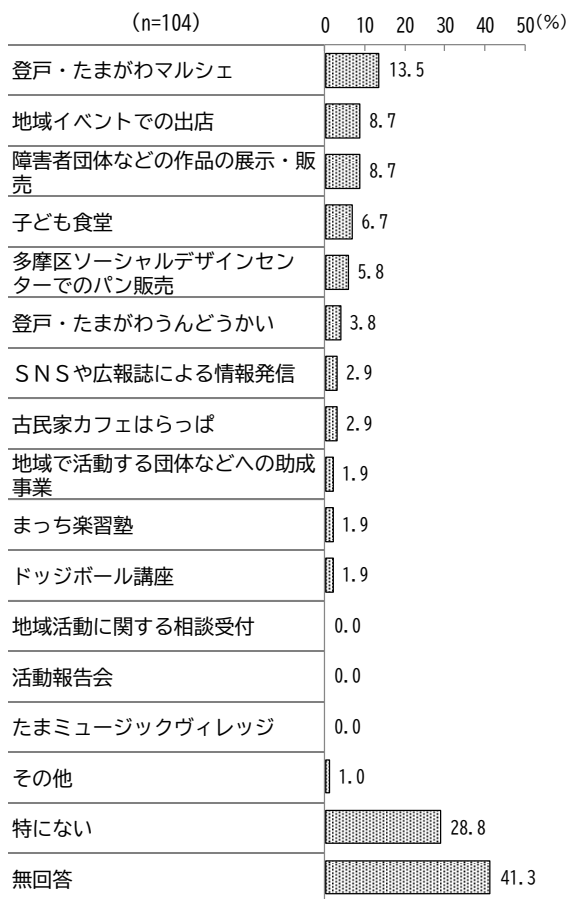
知っているイベントでみると、「各大学公開講座」(12.0%)、「多摩区3大学コンサート」(10.7%)、「大学図書館の地域開放」(9.1%)の順となった。

35 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の認知度



「『多摩区ソーシャルデザインセンター』の認知度」について聞いたところ、「知らない」が82.5%と最も高い結果となった。また、「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』は11.9%となった。

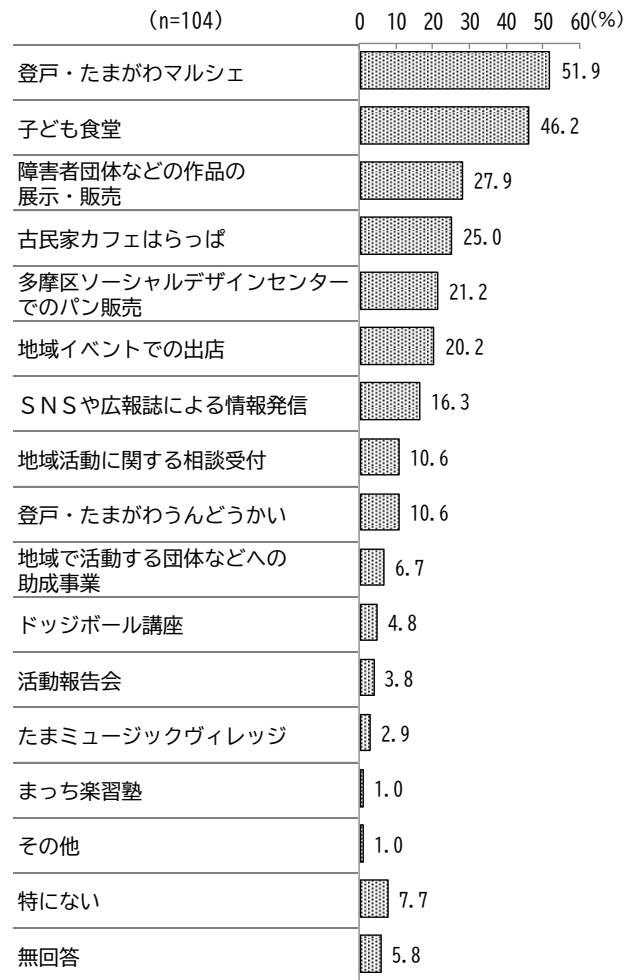
37 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の利用・参加経験



「『多摩区ソーシャルデザインセンター』の取組の利用・参加経験」について聞いたところ、「特にない」が28.8%と最も高い結果となった。

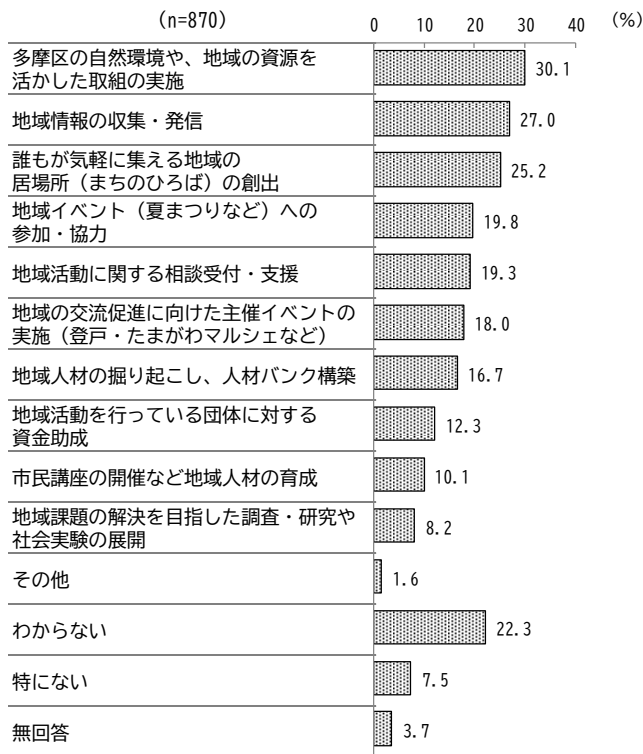
利用した、参加したことのある取組でみると、「登戸・たまがわマルシェ」(13.5%)が最も高く、次いで「地域イベントでの出店」「障害者団体などの作品の展示・販売」(ともに8.7%)の順となった。

36 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の認知度



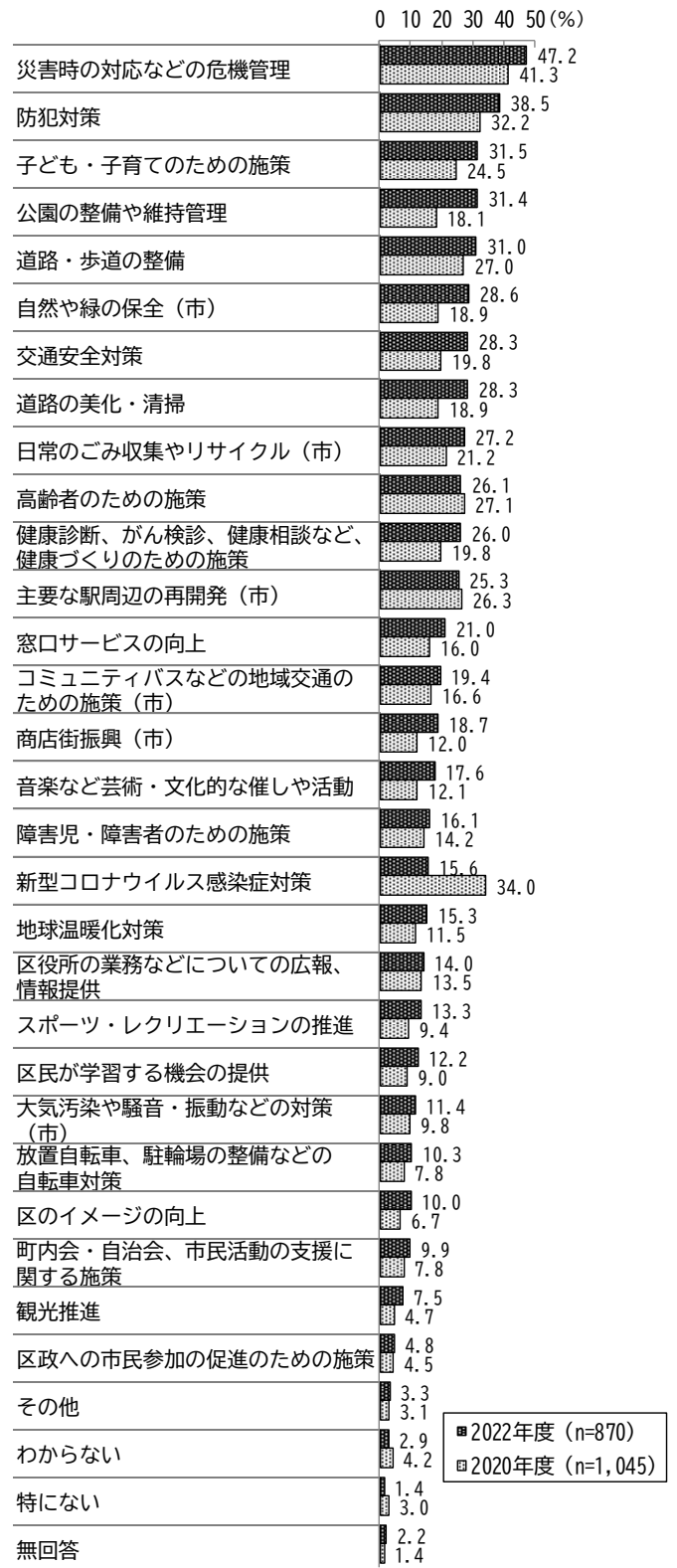
「『多摩区ソーシャルデザインセンター』の取組の認知度」について聞いたところ、「登戸・たまがわマルシェ」(51.9%)が最も高く、次いで、「子ども食堂」(46.2%)、「障害者団体などの作品の展示・販売」(27.9%)、「古民家カフェはらっぱ」(25.0%)の順となった。

38 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと



「多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと」について聞いたところ、「多摩区の自然環境や、地域の資源を活かした取組の実施」(30.1%)が最も高く、次いで、「地域情報の収集・発信」(27.0%)、「誰もが気軽に集える地域の居場所（まちのひろば）の創出」(25.2%)の順となった。

39 区役所が力をを入れて取り組むべき施策



*項目の後ろに(市)とあるものは、現時点で主に市役所を中心として進めているもの

「区役所が力を入れて取り組むべき施策」について聞いたところ、「災害時の対応などの危機管理」(47.2%)が最も高く、次いで、「防犯対策」(38.5%)、「子ども・子育てのための施策」(31.5%)の順となった。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

令和4年度
多摩区区民意識アンケート調査
概要版

令和5年（2023）2月発行

川崎市多摩区役所まちづくり推進部 企画課

〒214-8570 神奈川県川崎市多摩区登戸 1775-1
電話：044-935-3140

多摩区区民意識アンケートの《報告書》《概要版》は、
川崎市多摩区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス <https://www.city.kawasaki.jp/tama/>